

中学生の部



節約言葉の矢印

「そんな」友達との会話で度々耳にする言葉だ。このフレーズを最初に耳にしたときは、短い台詞なのに、会話が前のめりに同調する姿を的確に表現できているように、とても格好よく聞こえた。

「言葉が減っていく時代」「これだ」「五木先生の指摘が、私の「これだ」の疑問の正体だった。「それな」は、SNS等の非対面型のツールで使われる頻度の高い言葉だ。経済効率の良い言葉の印象を受けたのもうなづけた。確かに、メール等の短いやり取りの中で、簡潔に会話を成立させるなら、最適解かもしれない。でも、実際の生活の中にまで、ネット上の言葉を持ち込むのはやはり違うのではないかと。何故なら、現実に対面している相手に失礼なことだと思ってしまうから。

優秀賞



ノンバイナリー俳優、初受賞

私がこの新聞記事を選んだ理由は、家庭の授業で「性的多様性」を学習し、性の多様性について興味を持ったからだ。

高校生の部

「そんな」友達との会話で度々耳にする言葉だ。このフレーズを最初に耳にしたときは、短い台詞なのに、会話が前のめりに同調する姿を的確に表現できているように、とても格好よく聞こえた。でも、この違和感があった。実践をためらっていた理由が新聞記事にあった。



ネット中傷、批判との線引き

健康被害に目がいっていたが、誹謗中傷は経済や企業活動にも大きな影響を与えることがわかった。ネット上の誹謗中傷は、被害者にとって、被害者のおよそ二十人に一人が誹謗中傷の被害を受けており、被害者の一割以上が精神的・身体的な健康に影響を受けたという。今や炎上は珍しい現象ではなくなり、ネット上の誹謗中傷が人の命を奪う可能性は有名どころでなく、我々十代にも起こり得る可能性を調査結果は示している。恐ろしいことだ。

「二〇二二年度に行われた実態調査によるとインターネット利用者のおよそ二十人に一人が誹謗中傷の被害を受けており、被害者の一割以上が精神的・身体的な健康に影響を受けたという。今や炎上は珍しい現象ではなくなり、ネット上の誹謗中傷が人の命を奪う可能性は有名どころでなく、我々十代にも起こり得る可能性を調査結果は示している。恐ろしいことだ。ニュースや意見に接すれば、誰も何らかの感想を持つものだ。自分と近い考え方や見解には納得し安心するし、そうでない場合は意外に感じ、違和感を持つ。時には否定的な意見を口にすることもあつた。では、誰かの意見に賛同しないことはよくない行為なのだろうか。



支え合いで明るい未来を

近頃よく耳にする、ヤングケアラーという言葉。ヤングケアラーとは、大人に代わって日常的に家事や家族の世話をする子どものことを指す。現在、中学二年生の約一七人に一人、高校二年生の約二四人に一人が家族の世話をしているという調査結果を知り、私はクラスに一人はいるという実態に驚いた。

「性別」にとらわれずに生きていくにはどうしたらよいか、世界で解決が必要がある。また、私たちが住む日本でも、周りの目を気にせず自由に生活できる国づくりに、重要であると思う。



復興とは

被災された方々のお話を直接伺う機会はなかったという事実。私はこの疑問を、どう消化すればよいのか分からなかった。

「今度は私が若者の受け皿」これが、この記事の見出しである。左に目をやると、さわやかな顔と笑顔が印象的な女性の写真。これは読むしかない、私は小さな文字を追った。



覚えておくべきもの

「自分は戦争のことを何も知らないのではないかと」。この新聞を読んで、改めてそう感じました。

自分、戦争を見て初めて福島がどんな被害を受けたか知りませんでした。模擬爆弾が福島に投下されたこと、当時のような教材が使われていたか、工場などではほぼ全ての中学校や高校の生徒が働かされていたことなど、展示されていたほぼ全てが知らないもので、学校では教えてくれません。しかし、

第14回みんゆう新聞感想文コンクール作品紹介